

I. 研究主題

自分たちで一生懸命学ぶ子の育成 ～自分で 仲間で みんなで 考え・説明できる 算数～

II. 研究主題設定の理由

本校では昨年度、研究主題を「自分たちで一生懸命学ぶ子の育成」、副題を「みんなで考える・説明できる 算数」とし、単元を貫く算数的な活動を新しく取り入れ児童の意欲を大切にし、みんなで考え、説明することでわかる算数科の授業づくりをすすめてきた。

「意欲の喚起」「記述力の育成」の2つを重点として、授業改善に取り組んできた。重点1の「意欲の喚起」では、単元の指導・評価計画を大切にし、児童の学習意欲が継続するように単元を貫く算数的な活動を意識して行うことができた。重点2の「記述力の育成」では、図や式、キーワードや算数用語を用いて言葉や文で説明することを繰り返し指導してきた。

一方、意欲を持ちながら、みんなで考え、説明しあっても、自分の考えをもち表現する力がついたとはいえない学力調査の結果が出た。そのため、重点2「記述力の育成」が今後必要である。今年度も、数学的表現(算数用語、図、式、表やグラフ)を用いたり、それをもとに根拠を明確にしたりして文や言葉で書くことを継続していかなければならないと考える。

また、基礎基本ができていない子の割合が高く、授業時間内の定着をめざして、今年度は、まず、重点1として、「知識・技能の定着にこだわる授業実践」をめざす。GIGAスクール構想と合わせ、「ICT活用定着型授業スタイル」を取り入れる。スピーディーな既習確認→映像や具体物による考えたくなる提示→学び合いでの多様な意見・着想・根拠の可視化や分類→終盤15分での個別最適な適用題→ふり返り→家庭学習で児童の自分で考え、みんなで考え、できたことを家でもう一度やってみたいという算数科授業の流れを確立する。つぎに、重点2として「記述力」をつけることをめざす。記述の方法をモデル文や文型をもとに段階的に指導することを継続する。具体的な記述する力として、低学年では、教科書の「学びのまとめ」にある、理由や誤答の説明を自分で書く力がつくように、また高学年では単元の中の説明や理由を書く力がつくように、授業研究をすすめていきたい。

Ⅲ 研究全体構想図

